

島根県立三刀屋高等学校掛合分校「重点目標に係る学校評価」(令和4年度末)

	R2	R3	R4 アンケート結果							自己評価			学校関係者評価								
			評点	評点 3以上	評点 3以上	4	3	2	1	0	1年	2年	3年	評価	結果分析(「○」で示す)と改善の方向(「□」で示す)	評価	コメント				
1 学力の育成	教員	教育活動全体を通して、主体的に学ぼうとする意欲や粘り強く取り組む姿勢を育成することができたか。	2.7	2.9	3.2	2	9						3.1 (A)	・全教科に共通するテーマとして「シコウ(思考・試行)」を掲げ、ICTの活用や地域探究学習など生徒の主体的な学びを促すことができた(生徒アンケートの肯定的回答:R元年74.6%→R4年96.7%)。1年生には、自ら学ぶ姿勢を育むためAI型教材を初めて導入したが、その活用が全教科で十分にできているとは言えない。 ○教科全体に関わる指導目標や評価方法等改めて全教員で共通理解を図ってきたい。 ○AI型教材の最適な活用方法について研究し、実践してきたい。	(A)	・掛合分校で伝統的に行われている3年生卒業研究では、生徒が生活な身近な内容や自身の進路に関わる内容をテーマに設定しており、質の高い学習が行われている。 ・基礎学力の定着について、生徒に比べて保護者のアンケート結果が低い数値が出ている。学習内容等の保護者への発信の仕方について検討が必要である。 ・AI型教材を導入し、個別最適な学びの支援を進めている。取組には個人差があると思われるので、生徒の主体性を高めるための教員のサポート体制の確立が大切である。 ・欠席している生徒への端末を使った授業配信などについても研究してほしい。					
	生徒	あなたは、学校生活を通して、自ら考え、自ら行動する意欲が高まりましたか。	2.8	3.0	83%	3.2	97%	12	46	1	1	1					3.1	3.3	3.1		
	保護者	お子さまは、学校生活を通して、自ら考え、自ら行動する意欲が高まりましたか。	2.9	3.1	91%	3.0	90%	8	48	6							1	3.0	3.1	3.1	
	教員	学習指導を充実させたか。(授業の徹底・わかる授業・資格試験・授業時間の確保等)	3.3	3.2	3.2	2	9										3.2 (A)	・各教科で思考することを重視した授業展開の工夫や各種検定に向けたきめ細かな指導を行うことができた。ICTを活用したわかりやすい授業作りをより一層進めることができた。 ○定期的な教科主任会や教職員研修会の回数を増やし、教職員の指導力をより一層高めていきたい。 ○一人一台端末の授業における活用方法について研究し、実践してきたい。			
	生徒	あなたは、授業を通して、以前よりも基礎学力がついた実感がありますか。	2.9	3.0	89%	3.3	100%	19	39			3							3.3	3.5	3.2
	保護者	お子さまは、学習指導を通して、以前よりも基礎学力が高まりましたか。	2.8	2.7	53%	3.0	75%	15	31	13	2	2							3.3	2.9	2.7
2 キャリア教育の推進	教員	上級学校・企業・関係諸機関との連携を密にし、望ましい職業観・勤労観の育成に努めたか。	3.2	3.1	3.5	6	5					3.3 (A)	・将来希望する職種に合わせた職業体験学習を実施するなど、生徒個々の実態に合わせた取組と地元企業を中心とした企業との連携を図ることができた。一方で保護者アンケートの結果から、特に3年生の保護者に対して、もう少し密な情報提供が必要だったと思われる。 ○一律の情報発信では伝わらないことも多いため、各保護者が気軽に担任や学校に問い合わせてできる仕組み作りを考えたい。 ○PTA総会(コロナにより今年度中止)時等に行う進路説明会を充実させたい。	(A)	・普通科でありながら農業や商業など専門的分野をはじめとした多様な学びを行っている。今後、掛合分校オリジナルの商品開発など地域の力をより一層活かしてほしい。 ・文化祭をはじめ研究発表会において生徒が自信を持って発表している姿が見られた。人前で発表する経験が、学力向上や主体性の育成につながっている。 ・進路指導について、生徒に比べて保護者のアンケート結果が低い数値が出ているが、実感としてきめ細かに指導していただいていると感じる。保護者への情報発信をより一層丁寧に行うとよい。 ・プレゼン資料やPR動画の編集等には相当な専門的知識が必要であると思われる。教員の負担を軽減するために、地域の外部人材を巻き込んだ教育をより一層進めてほしい。 ・掛合中学校が地域学習として道の駅活性化イベントを来年度行う予定である。これらのイベントをはじめ、「地域をフィールドとした探究学習」を中高連携した取組として進めてほしい。 ・行事や儀式をはじめ学校生活全般において規律ある態度が養われていると感じられる。						
	生徒	あなたは、体験的活動(職場体験、地域学習など)や進路ガイダンスを、自分の進路を考える際の参考に使っていますか。	3.1	3.1	84%	3.4	98%	25	34	1						1			3.3	3.5	3.4
	保護者	学校は、お子さまに進路についての適切できめ細かな指導を子どもに行っていますか。	3.2	3.1	87%	2.9	81%	8	39	9	2					5			2.8	3.1	2.9
	教員	地域と結びついた学びを促進し、地域や社会に貢献しようとする意欲を育成できたか。	3.1	3.2	3.5	5	6										3.2 (A)	・地域をフィールドとした探究学習を3年間を通じた一貫したプログラムとして行うことで、生徒の地域・社会に貢献しようとする意欲が高まった(生徒アンケートの肯定的回答:R元年57.6%→R4年95.0%)。特に1・2年生は地域に出かけ、プランを「行動」に移す学習活動(掛合太鼓、はやしこ奉納、道の駅再生プロジェクト、お米応援プロジェクト、ほか)ができたことが生徒の充実感や達成感につながった。 ○夏季休業期間を利用した取組など、学校の授業だけでなく、教育課程外の生徒の主体的な活動を促すような仕組み作りを考えたい。			
	生徒	あなたは、地域活動や探究学習を通して、地域や社会に貢献しようとする意欲が高まりましたか。	2.8	2.9	77%	3.2	95%	12	44	3						2			3.0	3.3	3.2
	保護者	お子さまは、地域活動や探究学習を通して、地域や社会に貢献しようとする意欲が高まりましたか。	2.9	2.9	69%	3.0	78%	13	34	13						3			2.9	3.2	2.9
教員	地域(保育所や小学校など含む)との交流やボランティア活動を通して、生徒の自己肯定感を高めることができたか。	2.9	2.8	3.2	3	7	1					3.1 (A)	・コロナの影響で夏季休業中のボランティア活動が多く中止となったが、探究学習等を通じて生徒の地域とのつながり意識は向上している。今年度初めて取り組んだ「音訳ボランティア」も生徒の自己有用感を向上させた。 ○ここ数年中止となった地域行事等について、コロナ以前のノウハウが失われないう関係機関との連携をより一層深めたい。 ○「雲南市スペシャルチャレンジ」のPRと学校としての支援を積極的に行い、参加者数を増やしていきたい。								
生徒	あなたは、地域(保育所や小学校など含む)との交流やボランティア活動に積極的に参加していますか。	2.4	2.8	65%	2.9	74%	9	33	15		4			2.9	2.8	2.9					
保護者	学校は、地域(保育所や小学校など含む)との交流やボランティア活動を積極的に進めていますか。	3.2	3.3	100%	3.2	95%	15	41	2	1	4			3.0	3.3	3.2					
教員	遅刻防止やあいさつ、言葉遣いの指導など、生徒の基本的な生活習慣の確立のための有効な指導ができたか。	2.8	2.6	2.9	1	8	2							3.0 (A)	・全体指導を大切にしながらも、生徒個々への日頃の声かけや見守りなど個別指導を重視した生活指導を教職員全体として行うことができた。 ○全体指導、個別指導それぞれの良さを活かし、適切な機会を捉えながら引き続き指導していきたい。 ○制服の変更にもなう新しい校則が、新入生をはじめ全校生徒に定着するよう、生徒会の主体的な活動も取り入れながら検討していきたい。						
生徒	あなたは、学校生活を通して、基本的な生活習慣(あいさつ、時間の厳守、言葉遣いなど)が身につきましたか。	2.9	3.2	91%	3.3	93%	19	35	4		3					3.0	3.5	3.3			
保護者	お子さまは、学校生活を通して、基本的な生活習慣(あいさつ、時間の厳守、言葉遣いなど)が身につきましたか。	3.0	2.9	81%	2.9	82%	9	42	9	2	1					2.9	3.0	2.9			
3 環境活躍の場がある	教員	教育活動全体を通して、心身ともに健康でたくましい生徒の育成に努めたか。	3.1	2.7	3.3	3	8					3.2 (A)	・体育祭・文化祭などに積極的に取り組む生徒が多い反面、それにあまり関わろうとしない生徒への対応が課題である。部活動は、文化系を中心に近年にない実績を残すことができた。 ○学校行事や部活動に関わる生徒と関わらない生徒の双極化の傾向が見られる。生徒個々の状況を把握しながら生徒の長所や能力をより一層伸ばしていく声かけを引き続き行いたい。			(A)	・掛合町内四校園の連携行事である「ごみゼロ大作戦」では、保育園児や小学生を優しくリードする高校生の姿が見られた。年間を通して町内保・小・中との関わりがより一層増えるとうい。 ・地域の伝統行事である「はやしこ奉納」に1年生全員が参加したことは、地域活性化に大きく貢献したと思う。地域の方から喜ばれるという経験が生徒の自己有用感の醸成にもつながっている。 ・来年度は郷土芸能同好会を立ち上げる予定とのことだが、「掛合太鼓」のほか「掛合トラップ」などにも活動の場を広げ、地域の伝統文化継承に関わってほしい。				
	生徒	学校は、授業や学校行事・部活動を通して、心身ともに健康でたくましい生徒の育成に努めていますか。	2.9	3.1	80%	3.2	96%	15	38	2								6	3.1	3.3	3.3
	保護者	学校は、授業や学校行事・部活動を通して、心身ともに健康でたくましい生徒の育成に努めていますか。	3.2	3.2	91%	3.1	88%	12	39	7								5	3.0	3.3	3.0
	教員	教育活動全体を通して、生徒に「将来の夢や目標に向かって学び続ける力」を育成できたか。	2.8	2.7	3.1	2	8	1							3.1 (A)			・日頃の生徒の観察や生徒支援委員会・生徒連絡会等により生徒個々の状況を把握、職員間で共有しながら一人一人に合わせた学習指導・生活指導・進路指導等を行うことができ、生徒の意識が向上した(生徒アンケートの肯定的回答:R元年61.7%→R4年91.5%) ○2年生研修旅行において、他校生徒との交流や相互発表の機会を設けるなど視野を広げ、学習意欲や自己肯定感のさらなる向上を図る取組を行いたい。			
	生徒	あなたは、学校生活を通して、夢や目標に向かって自主的・継続的に学ぶようになりましたか。	2.8	3.0	80%	3.2	92%	18	36	4	1			2					3.2	3.3	3.2
	保護者	お子さまは、学校生活を通して、夢や目標に向かって自主的・継続的に学ぶようになりましたか。	2.8	2.8	64%	2.9	81%	6	44	11	1			1					2.8	2.9	3.1
5 4 安心場・所 安のある 学環 び境 づ 環 く 境 り づ くり	教員	特別支援教育や教育相談の観点から、教科指導・生徒指導、個別の支援の充実を図ることができたか。	3.5	3.1	3.2	3	7	1				3.0 (A)	・生徒個別の相談体制は十分確保されていると考えるが、担任等を通じた家庭との連携をより一層図る必要がある。年度当初にスクールカウンセラー来校日の年間予定を配付したが、保護者に十分に周知することができなかった。 ○生徒の保健室での様子や教育相談員からの情報など、必要に応じて家庭に連絡する体制を整えたい。 ○スクールカウンセラー来校日の年間予定をHPにアップするなど周知を図りたい。	(A)		・生徒が様々な場面で発表する姿を見ると、高校3年間の多くの人の関わりの中で、自己肯定感を高めていることが感じられる。 ・掛合地区に居住する外国人の数が増えてきており、区内で多文化共生の取組を進めている。今年度3年生を対象に多文化共生講座が行われたが、この取組を掛合交流センターとの連携の中でより一層進めてほしい。 ・特別な支援を必要とする生徒もいると思う。これまで同様、インクルーシブな教育活動で多様性を認め合う集団作りを進めていきたい。誰一人取り残さない教育には、サポート体制も必要である。地域の人材をより一層活用してほしい。					
	生徒	あなたは、悩みがある時、教職員(担任をはじめとする教員・養護教諭・図書館司書など)、スクールカウンセラー、教育相談員に相談ができていますか。	2.7	2.7	63%	3.0	75%	13	29	13	1						5		3.0	2.9	3.1
	保護者	あなたは、お子さまの悩みや問題について、必要なときに教職員(スクールカウンセラーや教育相談員を含む)に相談ができていますか。	2.9	3.0	76%	2.8	75%	5	40	13	2						3		2.9	2.9	2.7
	教員	教育活動全体を通して、生徒に「自他の人権を尊重しながら、思いやりのある人間関係を築いていく力」を育成できたか。	2.6	2.7	3.2	2	9										3.2 (A)	・人権に関わる生徒の状況や課題等については、職員間の情報交換や生徒連絡会等で共通理解を図っている。人権講座・保健講座や教科の取組を通して生徒の人権意識を高める取組をしているが、教職員研修の機会がやや少なかった。 ○人権・同和教育に係るホームルーム活動や各種研修会の実施にあたっては、担当教員と担任を交えた十分な検討の場を設けたい。 ○校内外で行われる教職員研修に関する情報収集と周知を徹底していきたい。			
	生徒	あなたは、学校生活を通して、自他を大切にし、思いやりのある人間関係をつくる力が高まりましたか。	3.0	3.3	95%	3.3	98%	18	36	1					6				3.2	3.4	3.3
	保護者	お子さまは、学校生活を通して、自他を大切にし、思いやりのある人間関係をつくる力が高まりましたか。	3.1	3.1	94%	3.2	95%	14	45	3					1				3.1	3.3	3.1
教員	施設・設備の充実と保全、校舎内外の適切な環境整備がなされたか。	3.3	3.4	3.5	6	5						3.2 (A)	・施設・設備のメンテナンスについては、昨年度から外部委託(山陰管財)しており、定期的な点検を通じて年度補修等を行っている。ただし、教職員による日頃の安全点検が不十分なところもあった。 ○教職員による安全点検項目を改めて見直し、生徒目線も交えながら日頃から環境安全チェックができる体制を整えたい。 ○大規模災害等にも備えた校舎内外の改修工事の必要性を精査し、引き続き県教委に要望していきたい。								
生徒	学校は、生徒の環境安全に配慮し、施設・設備の点検や保全を行っていますか。	3.0	3.1	83%	3.1	89%	13	35	6		7			3.1	3.0	3.3					
保護者	学校は、学ぶ環境に配慮し、施設・設備の点検や保全、美化活動を行っていますか。	3.2	3.2	90%	3.1	90%	9	37	5		12			3.1	3.2	2.9					

※アンケート回答数は、生徒61/71、保護者63/71、教職員11/11  
※「0:わからない」の回答は評点・3以上の割合の集計から除く

S:達成できている(評点3.5以上)  
A:概ね達成できている(評点:3.0以上3.5未満)  
B:まだ達成できていない(評点2.5以上3.0未満)  
C:達成できていない(評点2.5未満)  
※評価(評点)は、教員・生徒・保護者の評点の平均値